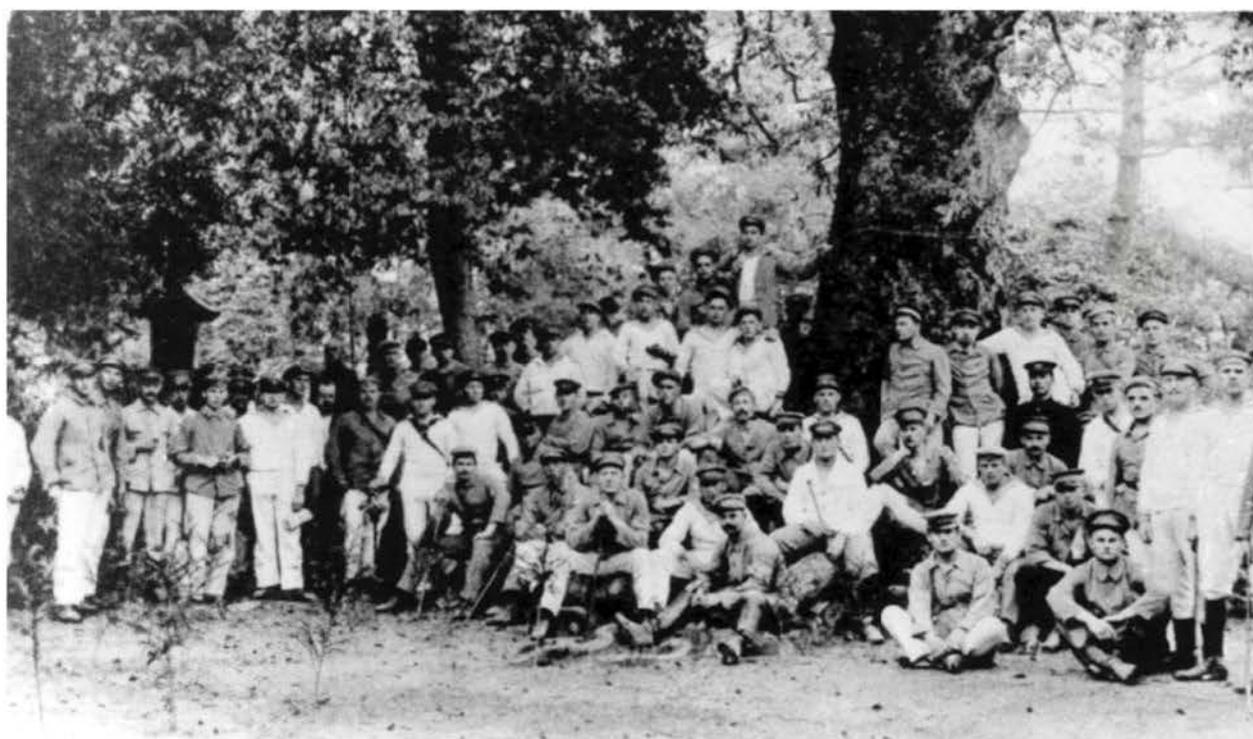


歴史散歩

れきしさんぽ No.11

ドイツ兵俘虜の足跡をたずねて



(藤井寛氏蔵)

この写真がどこで撮られたものか、御存じですか？大木の前の人たちは、明らかに日本人ではありません。ヨーロッパの森の中でしょうか？よく見て下さい。日本人らしい人もまじっています。それに、左手奥の小さな祠……。そう、これは大正時代に篠山神社で撮影された写真です。かつて、久留米には1,300名以上のドイツ兵が暮らしていたのです。今回の歴史散歩では、ドイツ兵が歩いた久留米にご案内しましょう。



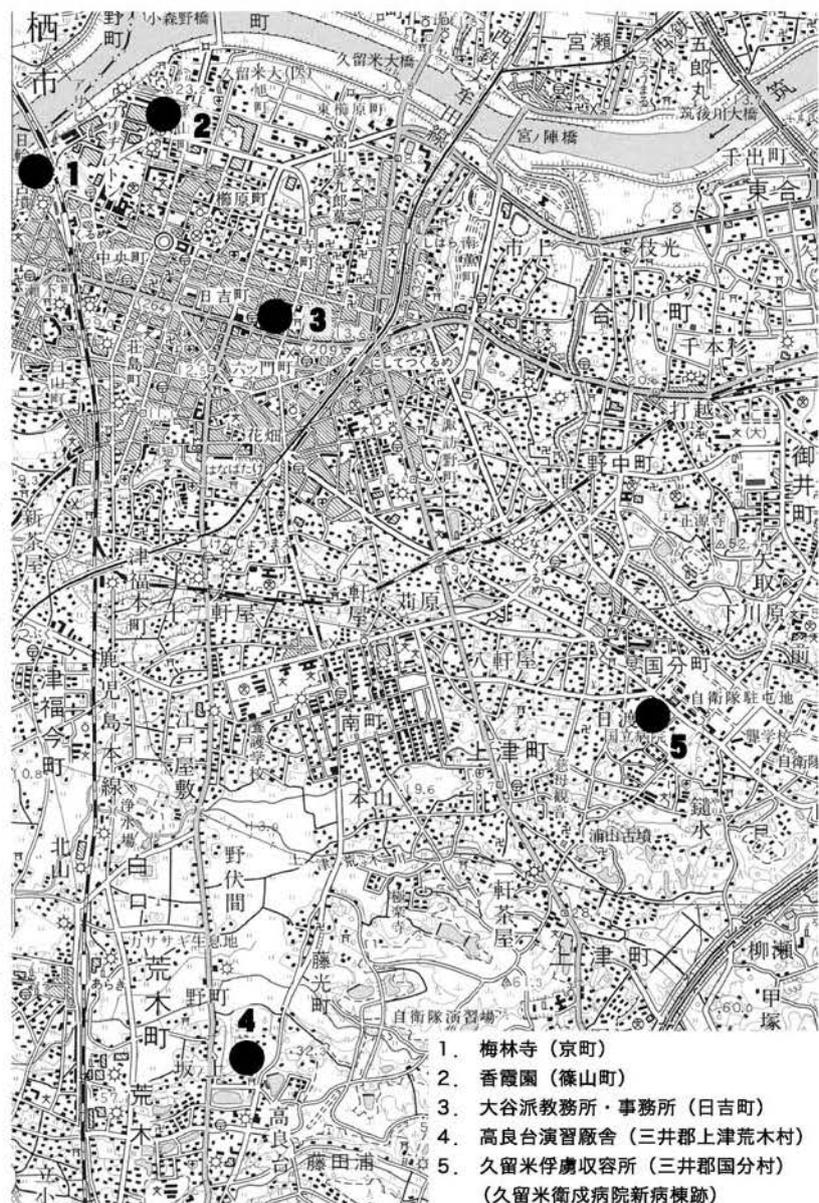
◆ドイツ兵と久留米

なぜ、そんなにたくさんのドイツ兵が久留米にいたのでしょうか？

答えは「第一次世界大戦に日本が参戦していたから」です。第一次世界大戦では日本は日英同盟によってドイツに宣戦布告しました。大正3年（1914）10月31日、ドイツが中国大陸に築いていた青島要塞を攻撃開始し、11月7日朝これを陥落させています。青島占領で日本軍は4,791名のドイツ兵を捕虜とし、4,679名を日本へ送ったのです。捕虜收容のため、日本全国に久留米のほか15か所に收容所が設けられました。当初、久留米では梅林寺、篠山町香霞園、大谷派久留米教務所、高良台演習廠舎の4か所に分散收容していましたが、大正4年6月に三井郡国分村の陸軍衛戍病院新病舎跡（現久留米医大医療センター一帯）を俘虜收容所として1か所に統合し、熊本收容所の全員と福岡收容所の一部を受入れて全国最大規模の收容所となったのです。收容人員は最高1,319名に達し、大正9年3月12日に閉鎖されるまで続きました。

收容所という言葉には、第二次大戦中の日本軍やナチス・ドイツの強制收容所のイメージがあまりにも強烈ですが、このころの俘虜收容所は俘虜を人道的に扱うように定めたジュネーブ条約に基づいて運営されていました。俘虜たちには階級に応じて日本政府から給料が払われ、手紙のやり取りや新聞の購読、運動や音楽などの活動にも制限つきではありましたがある程度自由が認められていました。毎週のように音楽会を開き、本格的な衣装を揃えて芝居を楽しんだりもしたのです。

当時の日本は、文化や科学技術をドイツに学んでいましたから、俘虜の存在は技術を学ぶよい機会でした。久留米では、つちやたび合名会社（現月星化成）・日本足袋会社・日本製粉株式会社久留米支店で俘虜を雇い入れ、毎朝警備の衛兵とともに軌道に乗って会社に通勤する俘虜の姿が見られました。市民が俘虜に対して寛容であれたのは彼らがもたらした経済的効果の他、町でみかけるドイツ兵の礼儀正しいダンディな様子や、彼等の持つ高い文化に純粋な憧れや尊敬の念を持っていたからかもしれません。



久留米俘虜收容所位置図

◆ドイツ兵と遠足

残念な事に、久留米は全国に設置された16か所の収容所の中では、あまり評判が良くない収容所でした。これは、衛戍病院の病棟を収容所として利用したため宿舎や敷地が狭かったのと、町中にあるという立地条件から俘虜と管理する日本軍の双方に精神的な圧迫感があったことが大きいと考えられます。そんな中、しばしば行われた遠足は気晴らしと運動をかねて俘虜たちの大きな楽しみでした。

発心公園で桜の花見をしたり、柳川や船小屋まで足をのばす事もありましたが、高良山・高良台・筑後川等の近場で山歩きや水浴を楽しむことが多かったようです。

遠足では記念写真もたくさん撮られています。表紙の篠山神社での写真もそんな遠足での1コマです。境内北隅の庭園跡で撮影されました。背景の大木は今も同じ場所に立っています。

写真は俘虜自身による撮影のほか、日本人の写真屋がついていって絵葉書にして販売もされていたようです。大正4年2月に俘虜全員で高良山に参詣し、麓の御手洗橋から池をのぞきこむ様子が絵葉書になっています。御手洗橋や俘虜たちが食事をした池のほとりの茶屋は、現在も当時の姿をしのぶことができます。



御手洗橋上で80年前の俘虜をしのぶ
フランクフルト日本語普及センター
の皆さん（平成11年4月）



高良社頭での記念撮影



筑後川での水浴



御手洗橋上の俘虜



交通機関 西鉄バス御井町下車東へ徒歩10分

◆ドイツ兵俘虜死亡者慰霊碑

久留米収容所では、5年3ヶ月の収容期間の間に11名が死亡しています。最初の2名は青島で受けた戦傷による貫通銃創と膿血症によるもので、他は肺炎や結核など感染症によるものでした。当時、世界中でスペイン風邪が大流行しており多くの犠牲者を出していましたが、この病気による死者がいなかった事は収容所の衛生管理がある一定の水準を持っていたといえるでしょう。



慰霊碑

死者はキリスト教による葬儀の後、御井旗崎の陸軍墓地に葬られました。俘虜の帰国の際に、9名の遺骨は戦友と共に帰国しましたが、土葬にされた2名の遺骨の行方は今もわかっていません。

この慰霊碑は、俘虜たちが帰国の際に遠い異国で倒れた戦友のために建てたものと思われます。日本人に注文して作らせたのでしょうか。死者の名前とともに「運命の力により剣を奪われ、捕らわれの人となり、黄泉の国に去った汝ら」「故郷はるか遠くに逝った同士たちの思い出のために」という追悼の言葉がドイツ語で刻まれています。

この慰霊碑は、俘虜たちが帰国の際に遠い異国で倒れた戦友のために建てたものと思われます。日本人に注文して作らせたのでしょうか。死者の名前とともに「運命の力により剣を奪われ、捕らわれの人となり、黄泉の国に去った汝ら」「故郷はるか遠くに逝った同士たちの思い出のために」という追悼の言葉がドイツ語で刻まれています。

慰霊碑は久留米競輪場選手宿舎敷地から平成9年4月に正源寺池横の敢策路ぞいに移設されました。平成10年には傍らに故国ドイツ産の菩提樹が植樹され、静かに慰霊碑を見守っています。

俘虜：戦闘で敵軍に捕らわれた者。捕虜に同じ。公文書では「俘虜」が使われており、本稿もそれに従った。

◆鳴門市ドイツ館へ行ってみませんか？

現在の徳島県鳴門市に設置された坂東俘虜収容所は、もっとも「模範的な」収容所だったといわれ、またベートーベンの第九を日本で最初に演奏した所としても有名です。

鳴門市ドイツ館は収容所でのドイツ兵俘虜の生活、地域の人々との交流などを当時の写真や資料、模型などを使って再現しています。収容所跡地はドイツ村公園として整備され、また近くにはドイツ橋や収容所死亡者慰霊碑などがあります。

(徳島県鳴門市大麻町捨字東山田55-2 TEL0886-89-0099)



発行機関	久留米市文化観光部 文化財保護課
住所	〒830-8520 久留米市城南町15-3
発行日	平成20年3月 日
文化財保護課	0942 (30) 9225
久留米市埋蔵文化財センター	0942 (34) 4995
久留米文化財収蔵館	0942 (38) 6194